

拠点名称：健康を基軸とした経済発展モデルと全世代アプローチでつくるwell-being地域社会共創拠点

代表機関	弘前大学	プロジェクトリーダー	村下公一 弘前大学学長特別補佐/健康未来イノベーション研究機構長(拠点長)・教授
幹事自治体	弘前市/青森県	幹事機関	京都大学/東京大学/京都府立医科大学 DeNA/(株)資生堂/花王(株)/味の素(株)/カゴメ(株)/ICI(株)
参画機関	九州大学,東京医科歯科大学,名古屋大学,名桜大学,和歌山県立医科大学,産業技術総合研究所,医薬基盤・健康・栄養研究所,ライフインテリジェンスコンソーシアム,筑波大学(株)博報堂,みやびベンチャーズ(株),小林製薬(株),セントラルスポーツ(株),クラシエ(株),サントリー食品インターナショナル(株),ハウス食品グループ本社(株),協和発酵バイオ(株),明治安田生命保険(相),雪印メグミルク(株),日本コプ共済生活協同組合連合会,ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(株),(株)ミルテル,シスメックス(株),テクスルガ・ラボ,東京海上ホールディングス(株),バリューHR,シルタス(株),LITALICO(株),野村総合研究所,帝人(株),マルマンコンピュータサービス(株),東北化学薬品(株),(一社)日本意思決定支援推進機構,マツダ(株),江崎グリコ(株),プリメディカ,ランドブレイン(株),イマジン(株),DMG森精機(株),サントリーウエルネス(株),第一三共ヘルスケア(株),日本電気(株)		

プロジェクトの概要

弘前ではこれまで産学官金民一体の中で、青森県の最重要課題である「短命県返上」を一大目標に健康づくりに取り組んできた。この中で、本質的な課題は若者のヘルスリテラシーの向上,より早期からの予防介入によるQOLの向上であると判明した。

本拠点では、**健康を基軸に、若者が地域で働きたいと思える成長産業として魅力的なヘルスケア産業を創出することによって、地域の人々を健康にしながら経済発展し、全世代の人々が生きがいをもって働き続けることができ、心身共にQOLの高い状態での健康寿命を延伸する、well-beingな地域社会モデルの実現**をめざす。具体的には、若い頃からヘルスリテラシーを身に付け、人々を健康にする産業で働くことにより健康を自分ごと化し、地域で健康に働き続けられる社会をつくり、健康寿命延伸と社会保障費の最適化を両立する。

このために、いつでもどこでも楽しみながら行動変容可能なセルフモニタリング式QOL健診プログラムを開発し、ソーシャルインパクトボンド等を活用して地域を健康にする事業への投資を促進する。

そのための基盤整備として、本拠点が長年培ってきた住民との顔の見える厚い信頼関係の強みを活かしながら、人材育成・データ活用環境の両面からソーシャルキャピタルの充実を図る。



拠点名称：**健康を基軸とした経済発展モデルと全世代アプローチでつくるwell-being地域社会共創拠点****代表機関：国立大学法人 弘前大学****プロジェクトリーダー：村下 公一 (健康未来イノベーション研究機構 機構長/教授)**

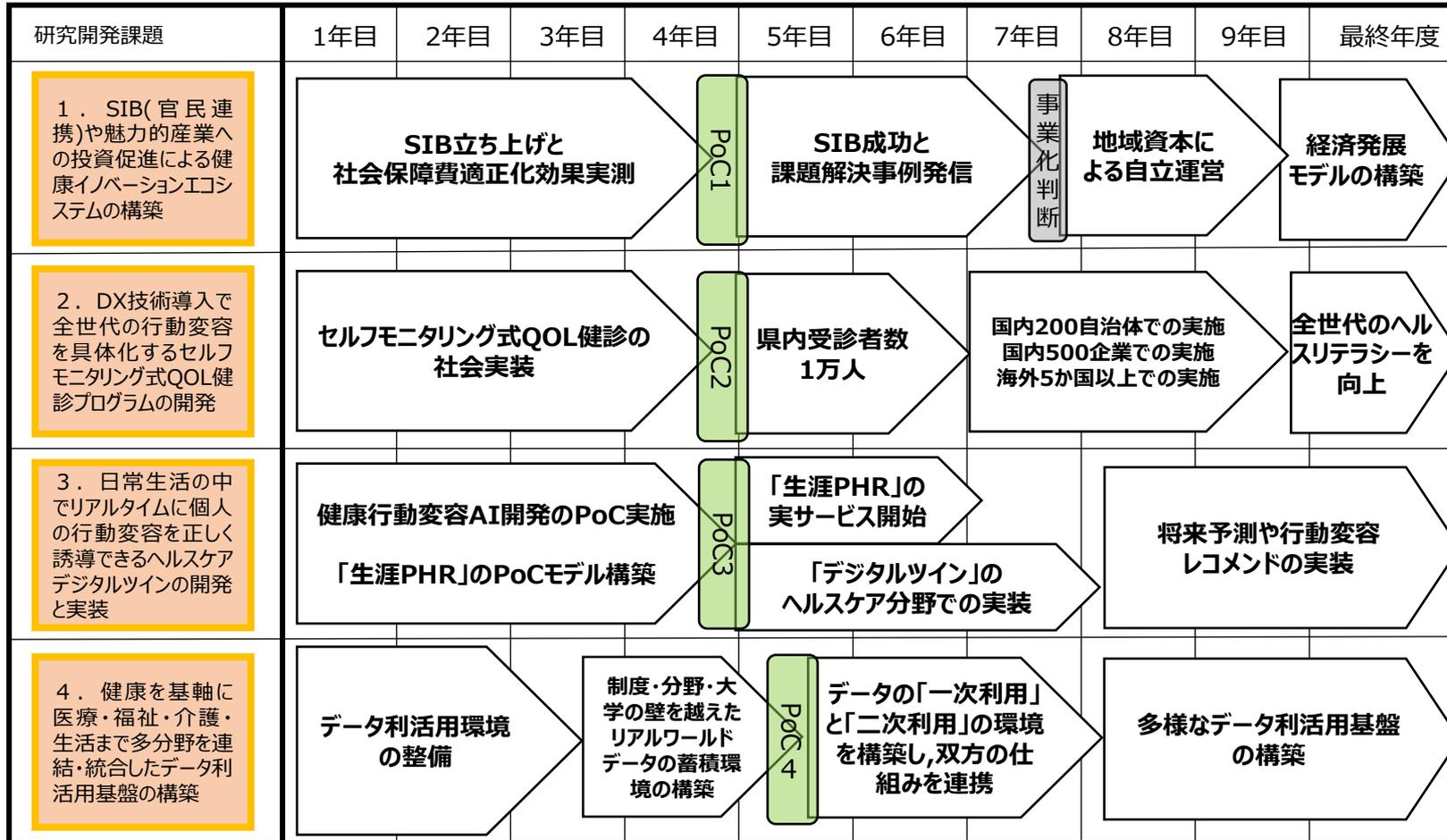
研究開発課題1：ターゲット1・ターゲット3の達成に向けた目標		年度
中間目標 1	SIB立ち上げと社会保障費適正化効果実測	2025
PoC達成目標	SIB成功と課題解決事例発信	2028
中間目標 2	地域資本による自立運営	2030
最終目標	経済発展モデルの構築	2031
研究開発課題2：ターゲット1・ターゲット2・ターゲット3の達成に向けた目標		
中間目標 1	セルフモニタリング式QOL健診の社会実装	2025
PoC達成目標	県内受診者数1万人	2027
中間目標 2	国内200自治体での実施 ・ 国内500企業での実施 ・ 海外5か国以上での実施	2030
最終目標	全世代のヘルスリテラシーを向上	2031
研究開発課題3：ターゲット1・ターゲット3の達成に向けた目標		
中間目標 1	健康行動変容AI開発のPoC実施	2025
中間目標 2	「生涯PHR」のPoCモデル構築	2025
PoC達成目標 1	「生涯PHR」の実サービス開始	2028
PoC達成目標 2	「デジタルツイン」のヘルスケア分野での実装	2029
最終目標	将来予測や行動変容レコメンドの実装	2031
研究開発課題4：ターゲット3の達成に向けた目標		
中間目標 1	データ利活用環境の整備	2024
中間目標 2	制度・分野・大学の壁を越えたリアルワールドデータの蓄積環境の構築	2026
PoC達成目標	データの「一次利用」と「二次利用」の環境を構築し、双方の仕組みを連携	2029
最終目標	多様なデータ利活用基盤の構築	2031

拠点名称：

健康を基軸とした経済発展モデルと全世代アプローチでつくるwell-being地域社会共創拠点

代表機関：国立大学法人 弘前大学

プロジェクトリーダー：村下 公一 (健康未来イノベーション研究機構 機構長/教授)



ターゲット1
若いころからヘルスリテラシーを身に付けることにより健康を自分ごと化して行動変容を継続し、健康寿命の延伸と社会保障費の最適化を実現する

ターゲット2
魅力的なヘルスケア産業の創出により地域経済を活性化させ、全世代の人々が生きがいをもつ地域で働き続けられる環境をつくる

ターゲット3
地域の人が自然と健康的な行動をとるようなソーシャル・キャピタルの高い地域社会を、人材育成・データ利活用環境の両面から整備する